

4 友達とおしゃべりをする

1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

(1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝ホセ）が、どこ（＝大学の登校途中）で、何をしている状況（＝剣道部仲間の祐太に話しかけられている）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「ホセさんは誰と会いましたか」「どちらが先に挨拶をしましたか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといいいでしょう。

(2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話の SCRIPT を読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話の SCRIPT は見ないように学習者に指示します。ただし、p. 68 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。うまくいった例を挙げています。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話 SCRIPT と英語の翻訳は別冊にあります。）

(3) ペアやグループで気づいた点を話しあう

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 69 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話しあいます。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A の SCRIPT の気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

会話 A の問題点	会話 B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・ホセは、祐太の後ろから歩いていて、黙って通り過ぎようとしている。 ・祐太がホセと会話を続けようといろいろと聞いているのに、ホセは一言で答えている。 ・祐太がたくさん聞いている。ホセからは何も聞いていない。 ・ホセはロボットのように言いたいことを一方的に言っている。 ・2人の会話がキャッチボールになっていない。 ・祐太が話しているのに、突然、話を終えて、「遅刻する。さようなら」と言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホセは自分から話しかけた。 ・ホセは、会話 A と同じように会話 B も単語で答えているが、「うん」と返事をしたり、「日本語のクラス」のように情報を追加して答えている。 ・ホセからも祐太のことを聞いている。 ・ホセは、祐太から聞いたことに「難しそう」のように感想を言っている。 ・「へえ」とか「えー」のように感心したり、驚いたりしたときの言葉が入って自然。 ・ホセが祐太と別れるとき、「じゃあ、また」と挨拶をしている。

(4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出しあう

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を1つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた（気づきが期待される）点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の○○のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることもあります。学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。